

# 介護職員初任者研修(シラバス)

## 1. 職務の理解(6時間)

目標(ねらい)	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境でどのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持ち、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。	
指導の視点	①研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ②視聴覚教材等を使用し、介護職が働く現場や仕事の内容を、できる限り具体的に理解させる。	
修了時の評価ポイント		
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
(1)多様なサービスの理解	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護保険による居宅サービス</li> <li>●介護保険による施設サービス</li> <li>●介護保険外のサービス</li> </ul>
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	●介護サービスを提供する現場の実際
		●介護サービスの提供にいたるまでの流れ ●介護過程とチームアプローチ
(合計時間数)	6	
使用器材・備品等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第1巻</li> <li>○DVD教材</li> <li>○プロジェクター 一式</li> </ul>	

## 2. 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)

目標(ねらい)	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。	
指導の視点	①具体的な事例を複数示し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ②具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解 ③利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ④虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。	
修了時の評価ポイント	①介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ②虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。	
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
(1)人権と尊厳を支える介護	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人権と尊厳の保持</li> <li>●ICF(国際生活機能分類)</li> <li>●QOL(生活の質)</li> <li>●ノーマライゼーション</li> <li>●虐待防止・身体拘束禁止</li> </ul>
(2)自立に向けた介護	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自立支援</li> <li>●介護予防</li> </ul>
(合計時間数)	9	
使用器材・備品等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第1巻</li> <li>○DVD教材</li> <li>○プロジェクター 一式</li> </ul>	

## 3. 介護の基本(6時間)

目標(ねらい)	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。
---------	--

		②介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。
指導の視点		①可能なかぎり具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を示す。 ②介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。
終了時の評価ポイント		①介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について挙げる。 ②介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について挙げる。 ③介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを挙げる。 ④生活支援の場面で出遭う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを挙げる。 ⑤介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を挙げる。
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	●介護環境の特徴 ●介護の専門性 ●介護にかかわる職種
(2) 介護職の職業倫理	1	●介護職の職業倫理 ●介護福祉士の倫理
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	●介護における安全の確保 ●事故予防・安全対策 ●感染症対策
(4) 介護職の安全	1	●介護職の心身の健康管理 ●感染予防
(合計時間数)	6	

使用器材・備品等	○中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第1巻 ○DVD教材 ○プロジェクター 一式
----------	---

#### 4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間)

目標(ねらい)		介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを挙げる。
指導の視点		①介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ②利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置付けや代表的なサービスの理解を促す。
終了時の評価ポイント		①生活全体の支援の中で介護保険制度の位置付けを理解し、各サービスや地域支援の役割について挙げる。 ②介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について挙げる。 ③ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて挙げる。 ④高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について挙げる。 ⑤医行為の考え方、一定の要件の下に介護福祉士等が行う医行為などについて挙げる。
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
(1) 介護保険制度	3	●介護保険制度創設の背景および目的、動向 ●介護保険制度のしくみの基礎的理解 ●制度を支える財源、組織・団体の機能と役割

(2) 医療との連携とリハビリテーション	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療行為と介護</li> <li>●訪問看護</li> <li>●施設における看護と介護の役割・連携</li> <li>●リハビリテーション</li> </ul>
(3) 障害者福祉制度およびその他制度	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障害者福祉制度の概念</li> <li>●障害者福祉制度のしくみの基礎的理解</li> <li>●個人の人権を守る制度の概要</li> </ul>
(合計時間数)	9	

使用器材・備品等	<input type="checkbox"/> 中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第1巻 <input type="checkbox"/> DVD教材 <input type="checkbox"/> プロジェクター 一式
----------	---

## 5. 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)

目標(ねらい)	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取るべきことが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき行動を理解している。	
指導の視点	<p>①利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心理機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。</p> <p>②チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。</p>	
終了時の評価ポイント	<p>①共感、受容、傾聴的態度、気づきなどの基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。</p> <p>②家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。</p> <p>③言語・視覚・聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。</p> <p>④記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。</p>	
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
(1) 介護におけるコミュニケーション	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニケーションの意義、目的、役割</li> <li>●コミュニケーションの技法</li> <li>●利用者・家族とのコミュニケーションの実際</li> <li>●利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</li> </ul>
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●記録における情報の共有化</li> <li>●報告・連絡・相談</li> <li>●コミュニケーションをうながす環境</li> </ul>
(合計時間数)	6	

使用器材・備品等	<input type="checkbox"/> 中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第1巻 <input type="checkbox"/> DVD教材 <input type="checkbox"/> プロジェクター 一式
----------	---

## 6. 老化の理解(6時間)

目標(ねらい)	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。	
指導の視点	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身に付けることの必要性への気づきを促す。	
終了時の評価ポイント	①加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。	

修了時の評価ポイント	②高齢者に多い疾病の種類とその症状や特徴及び治療・生活上の留意点及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。	
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
(1) 老年期の発達と老化にともなう心身の変化の特徴	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 老年期の定義</li> <li>● 老年期の発達と老化にともなう心身の変化の特徴</li> <li>● 老化にともなう心身の機能の変化と日常生活への影響</li> </ul>
(2) 高齢者と健康	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者の症状・疾患の特徴</li> <li>● 高齢者の疾病と日常生活上の留意点</li> <li>● 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点</li> </ul>
(合計時間数)	6	

使用器材・備品等	<input type="checkbox"/> 中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第1巻 <input type="checkbox"/> DVD教材 <input type="checkbox"/> プロジェクター 一式
----------	---

## 7. 認知症の理解(6時間)

目標(ねらい)	介護において認知症を理解する事の必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。	
指導の視点	<p>①認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。</p> <p>②複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。</p>	
修了時の評価ポイント	<p>①認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。</p> <p>②健康な高齢者の「物忘れ」と認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。</p> <p>③認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性及びそれに影響する要因を列挙できる。</p> <p>④認知症の心理・行動ポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方及び介護の原則について列挙できる。また、同様に若年性認知症の特性についても列挙できる。</p> <p>⑤認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。</p> <p>⑥認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。</p> <p>⑦認知症の利用者とのコミュニケーション(言語・非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方を概説できる。</p> <p>⑧家族の気持ちや家族が受け入れやすいストレスについて列挙できる。</p>	
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
(1) 認知症を取り巻く状況	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症ケアの理念</li> <li>● 認知症ケアの視点</li> </ul>
(2) 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症とは</li> <li>● 認知症の診断</li> <li>● 認知症の原因疾患とその病態</li> <li>● 認知症の治療と予防</li> </ul>
(3) 認知症にともなうこととからだの変化と日常生活	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</li> <li>● 認知症の人への対応</li> </ul>
(4) 家族への支援	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家族への支援</li> <li>● 認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア</li> </ul>
(合計時間数)	6	

使用器材・備品等	<input type="checkbox"/> 中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第1巻 <input type="checkbox"/> DVD教材 <input type="checkbox"/> プロジェクター 一式
----------	---

## 8. 障害の理解(3時間)

目標(ねらい)	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について	
指導の視点	①介護における障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ②高齢者の介護との違いや置きながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。	
修了時の評価ポイント	①障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ②障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。	
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
(1)障害の基礎的理解	1	●障害の概念とICF ●障害者福祉の基本理念
(2)障害の医学的側面、生活障害などの基礎的知識	1	●身体障害 ●知的障害 ●精神障害 ●発達障害 ●難病
(3)家族の心理、かかわり支援の理解	1	●家族の理解と障害の受容支援 ●介護負担の軽減
(合計時間数)	3	

使用器材・備品等	○中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第1巻 ○DVD教材 ○プロジェクター 一式
----------	---

## 9. 自立に向けた介護の実践(75時間)

目標(ねらい)	①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実践できる。 ②尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
指導の視点	①介護実践に必要なところからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるよう促す。 ②サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ③例えば、「食事の介護技術」は、「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるよう促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ④「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材から気づきを促す。
修了時の評価ポイント	①主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護状態等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ②要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考えや方法を列挙できる。 ③利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 ④人の記憶の構造や意欲等を支援と結び付けて概説できる。 ⑤人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起きるのかを概説できる。 ⑥家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 ⑦装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいた部分的な介護を行うことができる。 ⑧体位交換と移動・移乗の意味と関連する用具・機能や様々な車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

		<p>⑨食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだの仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</p> <p>⑩入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</p> <p>⑪排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</p> <p>⑫睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</p> <p>⑬ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について列挙できる。</p>
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
(1)介護の基本的な考え方	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●理論にもとづく介護</li> <li>●法的根拠にもとづく介護</li> </ul>
(2)介護に関するところのしくみの基礎的理解	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習と記憶に関する基礎知識</li> <li>●感情と意欲に関する基礎知識</li> <li>●自己概念と生きがい</li> <li>●老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害原因</li> </ul>
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生命の維持・恒常のしくみ</li> <li>●人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</li> <li>●骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用</li> <li>●中枢神経と体性神経に関する基礎知識</li> <li>●自律神経と内部器官に関する基礎知識</li> </ul>
(4)生活と家事	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活と家事の理解</li> <li>●家事援助に関する基礎知識と生活支援</li> </ul>
(5)快適な居住環境整備と介護 【講義・演習】	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●快適な居住環境に関する基礎知識</li> <li>●高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用</li> </ul>
(6)整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【講義・演習】	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●整容に関する基礎知識</li> <li>●整容の支援技術</li> </ul>
(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【講義・演習】	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●移動、移乗に関する基礎知識</li> <li>●移動、移乗に関する福祉用具とその活用方法</li> <li>●利用者、介助者にとっての負担の少ない移動、移乗の支援</li> <li>●移動、移乗を阻害する要因の理解とその支援方法</li> <li>●移動と社会参加の留意点と支援</li> </ul>
(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【講義・演習】	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食事にに関する基礎知識</li> <li>●食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法</li> <li>●楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法</li> <li>●食事と社会参加の留意点と支援</li> <li>●食事と口腔ケア</li> <li>●口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎予防、口腔機能の向上等、歯科衛生士の専門性を活かした介護</li> </ul>
(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【講義・演習】	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入浴、清潔保持に関連する基礎知識</li> <li>●入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法</li> <li>●楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法</li> </ul>

(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【講義・演習】	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●排泄に関する基礎知識</li> <li>●排泄環境の整備と関連する用具の活用方法</li> <li>●爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法</li> </ul>
(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【講義・演習】	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●睡眠に関する基礎知識</li> <li>●睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法</li> <li>●快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法</li> </ul>
(12)死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護 【講義・演習】	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●終末期に関する基礎知識</li> <li>●生から死への過程</li> <li>●「死」に向き合うところの理解</li> <li>●苦痛の少ない死への支援</li> </ul>
(13)生活支援技術演習 ①介護課程の基礎的理解 【講義・演習】	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護過程の目的、意義、展開</li> <li>●介護過程とチームアプローチ</li> </ul>
(14)生活支援技術演習 ②総合生活支援技術演習	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合生活支援技術演習(事例による展開)</li> <li>●事例に沿って生活支援の知識の習得度の確認を行う</li> </ul>
(合計時間数)	75	

使用器材・備品等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第2巻</li> <li>○DVD教材 ○プロジェクター 一式</li> <li>○車いす、杖、歩行器、高齢者体験グッズ ○ベッド、シーツ、体位交換用具、パジャマ等</li> <li>○浴槽、シャワーチェア、浴槽台、手すり、シャワーキャリー、シャワーチェア ○口腔ケア用品</li> <li>○ポータブルトイレ、尿器、便器、紙おむつ ○食具一式(トレイ、食器、箸、フォーク 他)、エプロン、介護用食</li> </ul>
----------	--

## 10. 振り返り(4時間)

目標(ねらい)	<p>研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、卒業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。</p> <p>また、本研修会で習得した介護の知識・技術を、高齢者歯科医療、障害者歯科医療の分野で、十分に活かし、歯科衛生士としての貢献度を高めることができるよう、意識を高める。</p>	
指導の視点	<p>①在宅・施設のいずれの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。</p> <p>②研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。</p> <p>③終了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。</p>	
修了時の評価ポイント		
科目	時間	講義内容・演習の実施方法
振り返り	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修を通して学んだこと</li> <li>●今後継続して学ぶべきこと</li> <li>●根拠に基づく介護についての要点</li> </ul>
(合計時間数)	4	

使用器材・備品等	○中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト第2巻
----------	--------------------------

修了評価	全科目終了時に筆記試験により実施する。
------	---------------------

全過程研修時間	130時間 (振り返り 4時間を含む)
---------	---------------------